日本の夏・東北の夏
虎毛の夏（春川～虎毛沢）
2011.8-13-15

メンバー　Ｌ山本、三井、河崎（記）

一年間の仙台勤務の後、震災を経て再びこちらに戻って来て、古巣の山友会にお世話になる事になった。

ここ数年は沢から遠ざかっていたが、今年の夏は久しぶりに沢で過ごそうかなと思っていた。

しかし、個人的にどうしても此処に行くという強い思い入れがあるわけではなく、結果的に山本さんの計画に乗せていただく事になった。

東北にいる間、沢にも多少行ったが、向こうは関東の沢とは雰囲気が違い、癒しの感じがする。今回も癒しを求めて行った。

8/12 夜、山本さんの会社に集合して行くが、私が仕事の都合で遅れ、出発は２１時半になった。この先１２時間も掛るとは予想もしなかった。

お盆の帰省ラッシュで東北道は大渋滞に次ぐ大渋滞で、交代で夜通し運転したが、宮城県に着く頃にはすっかり朝になっていた。途中福島で下車して、朝食にすき家にも寄った。

8/13（土）

築館インターで降りて、国道３９８号線に入り、花山湖、花山峠を経由してネットで調べていた田代沢林道に入る。林道の半分位行った所が崩れていて、そこに車を停める。地元の人らしき人が入っていて、帰る所だった。この時点で１１時になっていた。

しばらく林道を歩き、行き止まりになった所から下降して枝沢から春川本流に降

りる。沢は水も綺麗で、いい雰囲気だなと思った。しかし、そう思ったのも初めの内だけで、延々と河原が続き、いい加減飽きるころに本日の目的地三滝に着いた。

そこはちょうど三俣のような所で、ロケーションもなかなか。この先どうなっているか分からないと言う事で、予定通り宿泊地とする。

川の水でビールを冷やし、焚火を囲んで一杯やると沢に来た喜びが湧いてくる。来る途中、予想通りアブが結構いたが、夕方になるとさすがに落ち着いてくる。山本さんが釣竿を取出し滝下の釜で釣りを始めたが、竿が折れていて結局釣れなく楽しみはお預けとなった。

夜は標高が低い分初めは暑い位だったが、明け方には少しひんやりとした。

＜コースタイム＞
11：00 林道出発-11：40 春川本流-14：50 三滝

8/14（日）
　本日はメインの、虎毛山・ダイレクトクーロアールだ
　時間が掛る予想なので６時過ぎには出発する。
　宿泊地のすぐ先の滝は上部が悪く、ハーケン１本打って突破する。　その先しばらくは穏やかな河原が続き、ビバーク適地も要所にあった。また、亀甲模様の河原があり、自然の造形美に感嘆の声が上がった。

　万滝沢出合から暫くは釜とスラブ滝が続き、フリクションで登ったり、一部悪い所は巻いたりした。その先ダイレクト出合までもそれなりに巻きがあったりして結構時間が掛る。また、少し分かりにくい所もあり、要所でGPSが活躍した。

　そして、水も少なくなり虎毛の上部が見渡せる所まで来ると、頂上に伸びる一本の筋があり、そこがダイレクトクーロアールであった。今日は頂上の避難小屋（一部崩壊してると事前に出てた）に泊まる予定なので水を汲むが、三井さんがプラティパスを紛失してビニールを２重にして水を汲み、コッフェルに入れて運ぶ。
　ダイレクトの初っ端に大滝があり、傾斜はそうでもないが落ちたらダメージが大きいのでロープを出す。
　その先もちょっとした所が悪い小滝もあり、普段のクライミングの技術を生かして突破する。
　フリークライミングをやっていて思うのは、沢で確実に生かせるという事だ。クラック技術もそうだし、滝を登る時に確実に余裕が出てくる。フリーだけやっていてたまに沢に行くとフリクションが違うので怖いかもしれないが、フリーもやっていてある程度沢慣れもしていれば、確実に生かせる。今回もフットジャムが行かせた。

　傾斜は強いがぐんぐん高度を上げていくのが気持ち良い。振り返れば後方には栗駒山のなだらかな山容が広がっている。
　東北の山が懐かしいな。
ようやく頂上台地が近づいてくる。そして最後の急なヤブ漕ぎ少々で草原に飛び出した。まさに癒しの瞬間だ！

シニアお二人はお疲れの様子でしたが、それでも充実感一杯でした。

頂上避難小屋は事前に崩壊してるとあったが、予想以上に荒れていた。突風が原因で窓ガラスや扉がメチャクチャになっていた。それでも三井さんが執念で２階の一部を掃除して快適に過ごせるようにしてくれた。窓がないので風通しは良いがすがすがしくて気持ちいい。（夕方以降風が強くなって来た為ツエルトを張る）

頂上にはなんと他のパーティーもいた。聞けば三峰山岳会で６人の大所帯だった。

東北の沢はほとんど人に会う事は無かったがお盆だと少しは来るのか。

夜は風は強くなったが、満月が出てしばし外で佇んでいた。

＜コースタイム＞

6：10 出発-7：35 万滝沢出合-11：40 ダイレクト入口-16：20 頂上

8/15（月）

本日は下山日である。昨日、河崎案として、沢と平行に伸びている登山道をしばらく行き、最短で虎毛沢本流に降りられる枝沢を下降しようということが採用されたが、やはり朝になってトマの風の記録と同じ、頂上すぐ下の枝沢から下降することが決まった。

枝沢は難しい所もなく、懸垂も補助ロープを２本繋げる位で降りられる滝でした１回で済んだ。

本流に降りてからもしばらくは春川と違ってナメや釜、小滝があり飽きなくて済んだが、赤湯俣沢の出合位から再び延々と河原が続き思ったより時間が掛った。

しかも、初日や昨日よりも増してアブの攻撃が激しくなり、途中からは二人は雨具をかぶり、私も沢手袋から出てる指先を何回か刺されたので、焚火用の軍手をその上からして防御した。

予定よりオーバーして、やっと入渓時に降りた枝沢にある目印の所に着いた。

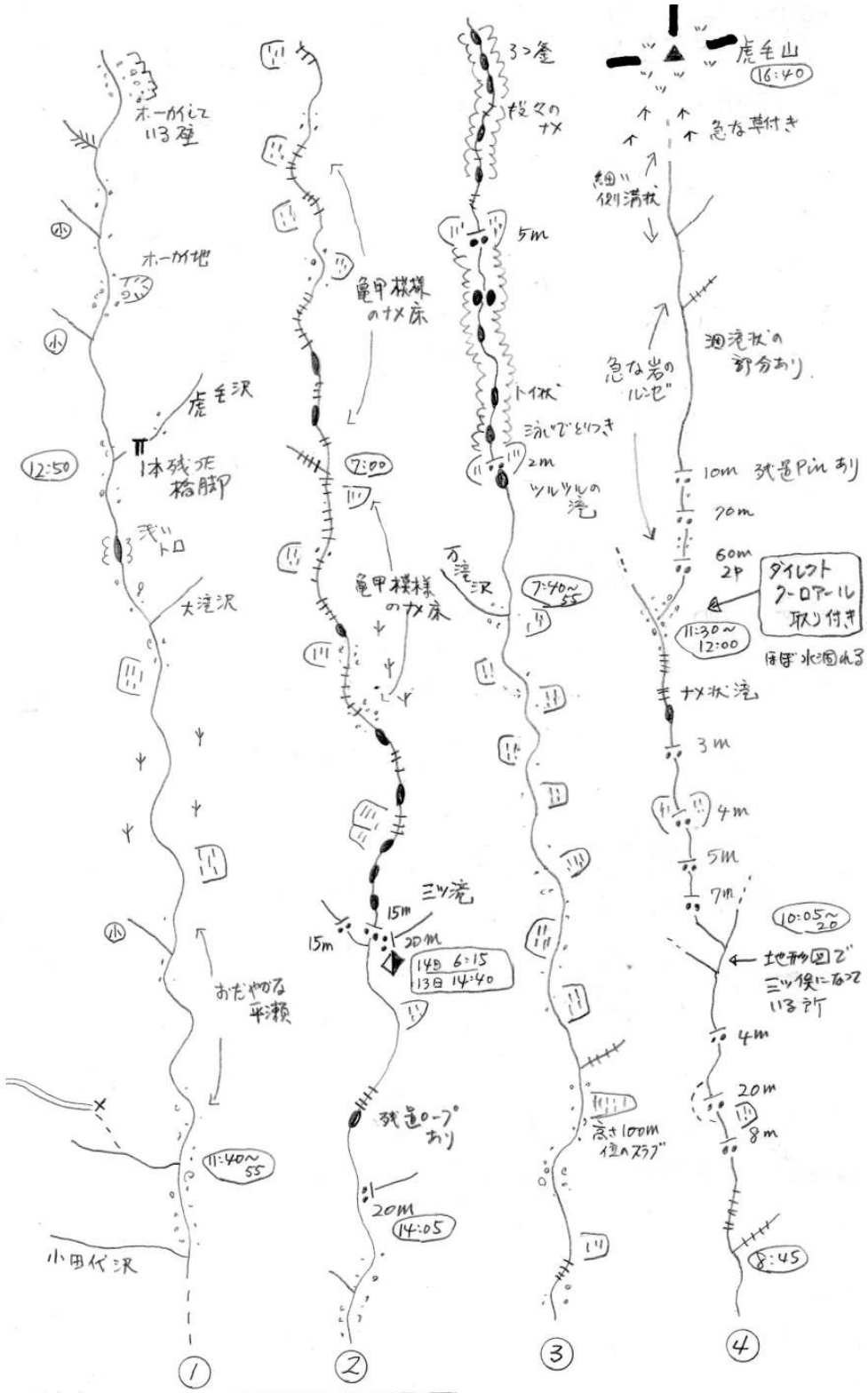
そこから林道に戻ったのだが、三井さんの GPS が軌跡を記録していなく、少し迷いかけたところで偶然地元のキノコ採りの人に会い、林道までの道を案内していただいて助かった。

そこからは一投足で車に着いた。

今日は降りるだけだから、楽勝だなと思っていたが、思ったよりも時間が掛り、丸一日行動となってしまった。
震災の影響で仙台転勤が１年で終わり、こちらに戻ってきたが、もし向こうにまだいたら今年は沢に沢山行こうと思っていた。その中に今回の沢も候補に挙がっていた。東北の沢は遠いので、なかなか行く機会もないかと思う。今回、貴重な機会を得られた事は良かったと思う。山本さんにも声を掛けていただいて感謝している。
三井さんとも久しぶりだったが、南紀の沢の話を聞いて興味を持った。機会があれば行ってみたい。
帰りは通り道沿いにあったホテルの日帰り温泉に入ったが、そこにもしぶとくアブがいて、まったく、アブに始まりアブに終わる山行となった。
麓で泊まるか、帰るか意見が出たが渋滞があるから帰ろうと言う事になり、再び交代で運転して東北道をひた走った。帰りは渋滞もほとんどなく、スムーズに走れたが、山本さんの会社に着いたのが夜中の３時半となった。こんな時間に帰ったのは、今まであったか。
でも、その日１日フルに使えたので得した気分になった。

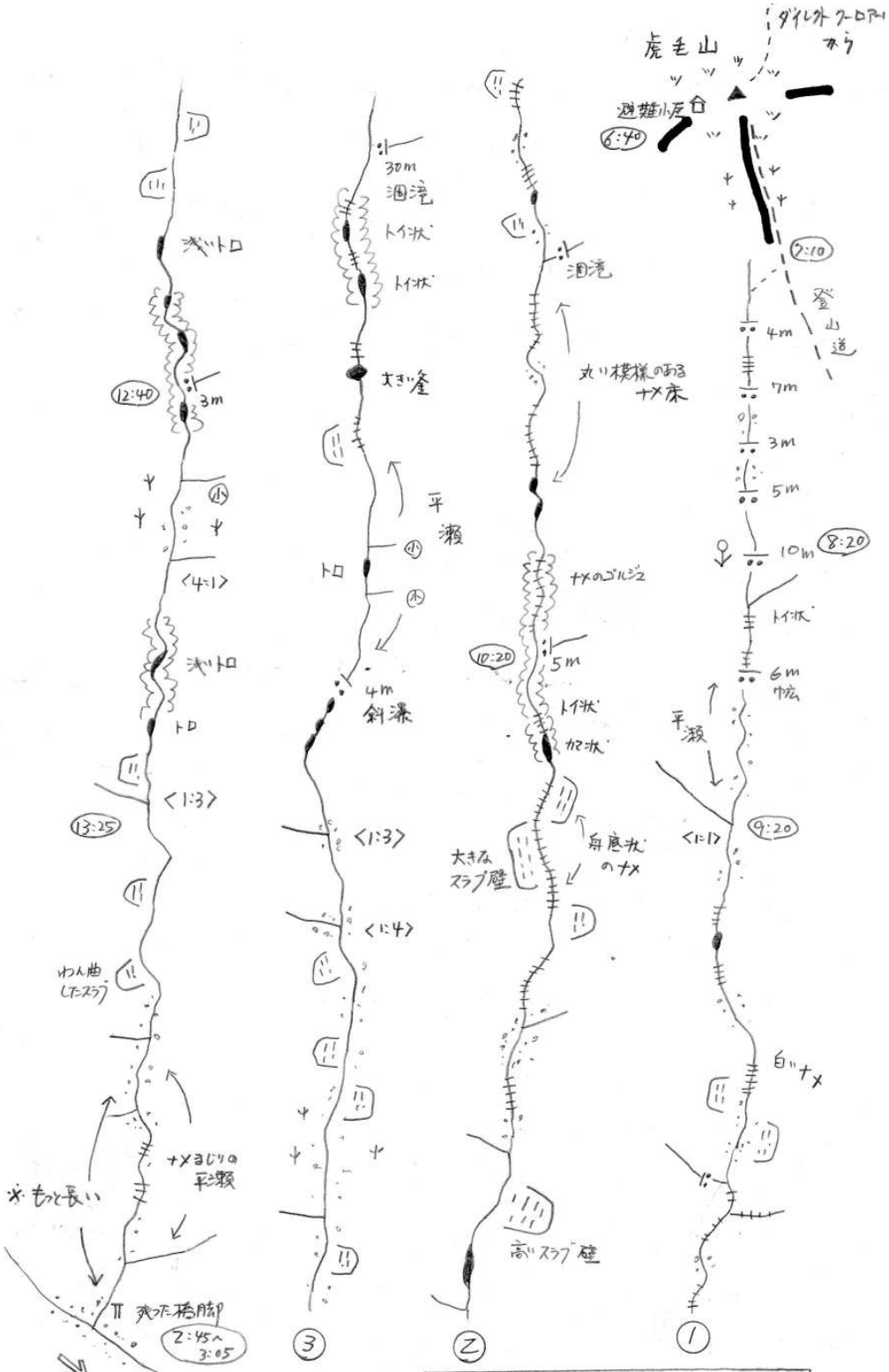
ここ数年は岩の夏合宿が多かったが、久しぶりに沢の思い出が作れて良かった。
皆さんお疲れ様でした。

＜コースタイム＞
6：40 出発-9：25 本流-12：35 赤湯俣沢出合-17：20 車



11年8月13日~15日
皆瀬川 春川・ダイレクトクーロアール

No 1



虎毛沢（皆瀬川本流）下降図

No2